

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	22-406	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Implicit measures of alcohol approach and drinking identity in alcohol use disorder: A preregistered double-blind randomized trial with cathodal transcranial direct current stimulation (tDCS) アルコール使用障害におけるアルコールへの接近と飲酒同一性の潜在的測定。陰極経頭蓋直流刺激 (tDCS) を用いた事前登録型二重盲検ランダム化試験		
執筆者		
Tobias Schwippel, Philipp A. Schroeder, Arafat Hasan, Christian Plewnia		
掲載誌		
Addict Biol. 2022 Jul;27(4):e13180. doi: 10.1111/adb.13180.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、渴望、潜在連合テスト、経頭蓋直流刺激		35754105
要旨		
<p>目的: アルコール使用障害 (AUD) は、社会的、経済的、健康的な側面に大きな悪影響を及ぼす、深刻かつ有病率の高い精神障害である。AUD 発症の危険因子や既存の AUD の再発の危険因子を特定することは、予防や治療アプローチに極めて重要である。アルコールに関連する潜在的な連合は飲酒に寄与することが示されており、突然の再発を部分的に説明する可能性がある。本研究の目的は、断酒中の AUD 患者における潜在的な連合を調査し、陰極経頭蓋直流刺激 (tDCS) が潜在的な連合を調節するかどうかを検証することである。</p> <p>方法: 平均断酒日数 31.5 日 (SD=36) の断酒中 AUD 患者 27 名を対象に、アルコールに関連した 2 種類の潜在連合テスト (IAT) および 2 種類の対照課題 (花-虫 IAT、ストループ課題) の成績を測定した。課題実行中に、左背外側前頭前野 (dlPFC) に 1mA の陰極または偽 tDCS を疑似対照被験者内デザインで施行した。</p> <p>結果: 断酒している AUD 患者には、アルコール回避の潜在的バイアスと、潜在的な非飲酒アイデンティティがあることが示された。陰極 tDCS はアルコールに関連した潜在連合もコントロール課題も変調させなかった。</p> <p>結論: 本研究は、AUD 患者におけるアルコールに関連した潜在連合に関する知見を補完するものであり、神経調節介入による潜在連合の変化の効果は、今回のパラメータでは示されなかった。</p>		